繪讀書注

實語教童子教注抄

首書讀法 庭訓往來具注鈔

大本　全一冊

此書ハ経典餘師の例に倣ひ仮文の下に譯文と贊し者く加るとも
附けたる者僅に漢字の傍に点を付るのみにして仮名交の用事に付く八一つも
漏さず具に注釋を加へ且一書ごとに文意を譯して童子男女
誦しやすからしむ凡庭訓往来の類書多しと雖
とも仮文に注釋なきものは漢字文にして全備し
ものの如し今此編は諸の好書と参考して一二を本拠とし
し其理趣を按説するものハ一ツも仮名交の文にして上層に小書して又考索に
便り実に是迄書ける大成比類なきものなり

寶語教

山高故不貴以有樹為貴

人肥故實以有智為貴

富是一生財　無識即貧賤

智是一世寶　有智代財

如意寶　命終法財

明文庫

学問は幼き時ふ勧め
まなびされば老て
後ふいっ程
悔ひても
その詮
なし又
後ても
後せ
ざれば
皆忘れ
そそ者
なる人を
同じまふ
なりて
益なき
りのし
徒く
悲

人不學世智　世智為愚人
貧窮の内の楽は
貧窮なれば
隣家の
隣家の
不知一日學
兄弟妻子
悪無用の
財物不存
才智貧窮
実日暮
人不知

人こころの学問をせざれば文
盲もなく文盲なれば年
老ゐるとなく人の上ふ
まなびなくば牛馬ふ
人ふつりまこく生涯を
まこと学
問ろ
文盲
蒸紙
ちぶ
ふ
時い
年と
ひ
人ふ
まるい
是学問文盲の徳ふて
賊い
文い
ものなく
人ふ
ものなく
文盲と
ものなく

幼時不勤学　老後悔
怪世事而　故漢書勿
學文勿学時　深眠通夜酒
思仇終日暮　徒費光陰
信如市人　淫婦賣不
只好計潘妖　天子家知

父母ハ天地のごく思ひ師匠を
日輪のごく小思ひ君ハ主
とやうに月つへのごくてべ
夫妻とハ夫婦のうち兄の嫁
しきに

たくて
あの先ハ
渇き
まく
し親
ろハ
孝
行
に

下師
君ハ
夫ハ
夫を共
まそ大切ハ
てべ又夫を
朋ごくハ口論ハ

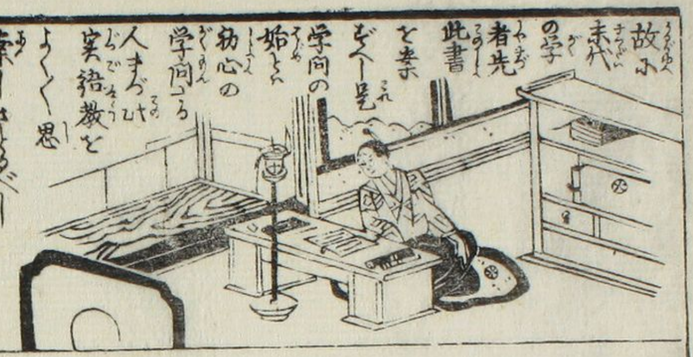
小人貴福人 泣人富貴家
面前人者 猶如春下花
淫出紙門 如乞人老
充如溝中蓬 父母如天地
仰君如日月 親族如草
夫妻如尾 父母春朝夕

已ろ兄ハ礼敬を尽せと
ハ我ろ年ろ人ハ敬
まへとなり礼義
と者ー又已ま
ろ弟
岩厳迎
いを
あ
こ
ろを
人ハの
逆なり
ろまを
せぶんハ
本ハそ
本や石の
ぶく弟め
ら妻畜生迎
大猫のたぐひもあるべ
ろまべつとあ行べー

仰君仕重恩 父母深愛
兄人面敬 己人敬厚
人而無恥 不如木石
人面畜生 ハ畜生
夫妻二姓 何楽七子林
不孝罪義 淫欲ハ苦海

老子云ふ孝
々父母の
ごとくなべ
なる
己れと同
格の人を
なる老人
をば格
別に敬
べし
又已れ
と身
世を
しく
おろそかに成けん
人の子
孝を勧
成て立成せよ左もなれば我
成も又他人のうを立て
立身出世もなる

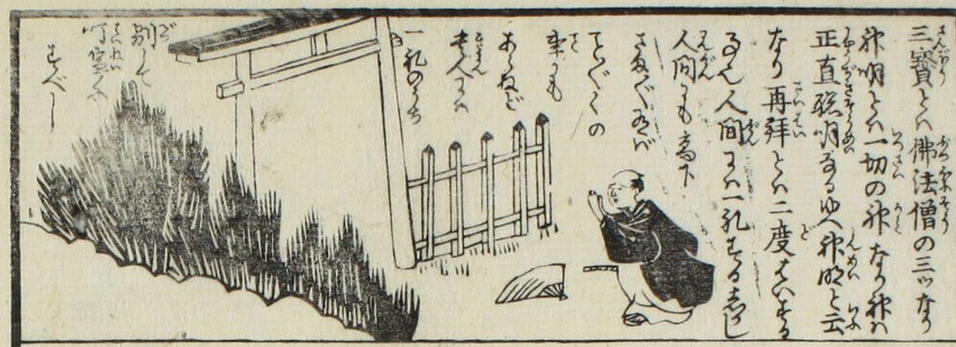
八幡
宮清廉
十悪人
雷
霆
殺光如
殺人
殺
雷
霆
殺
雷
霆
殺
雷
霆



故ふ
未代
の学
者先
此書
を楽
ぶべし
学問の
始め
初心の
学問する
人まづ
実語教を
よく〳〵思
案し
実語教
の
和心学問のたとへ
ある程ふ成程まづ
志失
もるべからざるとたとへ
耕作ふ
のいとまなるを
用ふ

中ふも良き事あり
一生既
ふ
ふ
夫貴人の前
ハ居てい
ふ
ふ
ふ

三寶とは佛法僧の三つなり
非明とは一切の非なり非
正直弦明する也非明と云
なり再拜とは二度とくるる
るを人敵とは一礼をする者し
人間も高下
さまざまあり
てくくの
事も
あるべき
きくの
一礼のこと
別して
可笑
もべー



人而無礼者とふい人ホ對
して無礼をするものい庇中迚
人多き中にて咎めをづら
しめるく事あるも庇ホ
交つく
雑言
せざ
まこと
人の
緒く
うつきうる中人ぜくにと
ちくひざ
とー
ちくか
事を云
へうーん事
異ーくば不逸ー
うまー何ーうても人ー
さうふの なれーものひとる
時い必をあるべ

向智愚ーー
人倫有後
人面獣
交庇ホ雑言
編言不遠
沙多無夢
不敬礼
朝廷無法
庇中之言
交際不遠
言語雑
禽獣ぬ

勇者い必を危しとあうとい

物長者金を疲猫の命薬
雪者の病者長生
流者又ちる者
人何も有望富而勿論言
人服吉盛て
強而勿代用
車ハ三寸轄
扱ふ事語

人ハ三寸舌
服損ス尺身
是猫つ
古長猫和
使口如鼻
繕ず敬事
過言一ハ者
罵逆言
金重ハて麿
悪ス玉那麿
猫猫ち尊門
唯人金所拓

積善の家まづ必ず餘慶あり
とてたゝぐ若根をする内うち
思いけるさ老父幸う出来さく
孫子の未だも其
家業繁昌する
なり悪を好む
とて惡ろう を
重る内いひきく
う養て後ろの
家ほろぼし

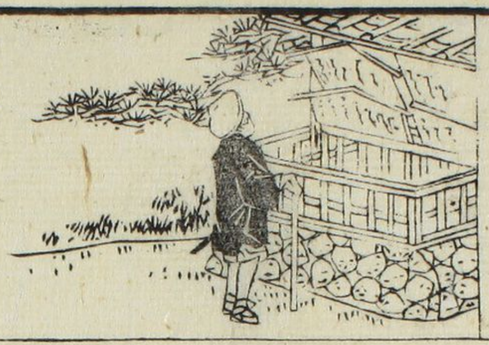
天道人を
生積善家
亦有餘慶
亦好惡人
亦有餘殃
人而有道
信力強門
必福祐昌

他人の弓と挽ぢ他人の
馬小騎ぢと勧向緒藏
法商賣藝道何事藝我
もろもろの疎まく他人の
するとを
るりく
ようさをる
見ゆるもの
るれ
他人
のもの

丹清もろ則ち我弓を
挽あるか騎の者なり若
他人をうるゑむとも迷ひ
後る發達の時あるべし

金力強盛
福祐昌光
人不同心
面聖如水清
心操純
不辨他人馬
前車覆
後車戒
お夏
後よりの師
善惡
家相福多

境ふへて禁じ向ふのまろ他ふへ初てくに國へ入ぬくとをる所い國の境をよく乗ふく法度ふ背かぬ中うふをぐ初るふ入りそ後いまくるの所作と向く我もるの乗ふ



君所ふ私の偉なりて天子の沸者ふ合字なりが対うくるのなり妻二のる号

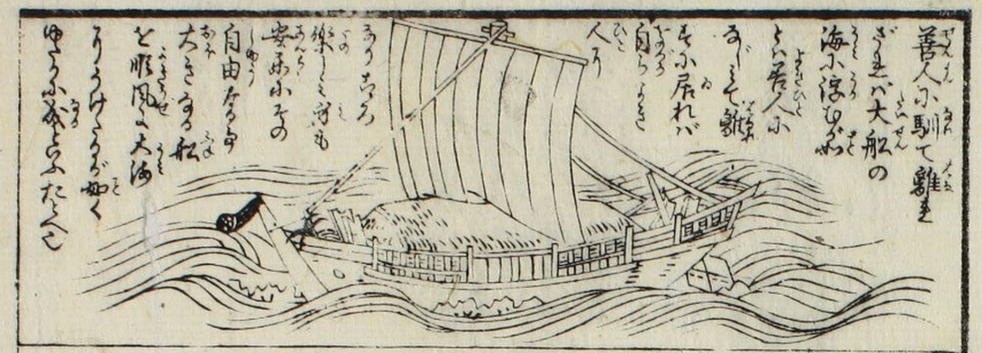
人者紀面石　虎ち紀要度
国ち質主　勿論繁美
天子参人　則民作怒美
入境而問禁　入国而問法
入御而問諱　入俗而問俗
入門先問諱　敬ち人や

くく世ふ二つとあきまき号なりうゆ者なり私の緯とらとと君の所へ参りくぬなり

表所ふ私諱　母ち二号異也
勇者恐ち意　弊ち仁参
菊簡罷ち　所聞今指桃
神ふ異人　北殺而今懸
所通打美子　北悪ちく紙
世寿ち考者　聘使城智滅

富と貧と心ふ欲多しと
金銀を沢山あおてもつゝ
へき時ふつゝに欲深き人を
貧人金うたゝ貧たゝしも
我い是ほどの投りをすと偉
めて人の
結構なる
ものも我を
心面白く哀
足
るを
知て貧人なり

貴者富人
富者貧人
貧者貧人
貧人欲
是不善人
悪人
悪人
悪人
悪人



中
貴者
不順者
ふ和者
順悪人
別者
海者

阿弟川紙果
早て逃父母
嫉妬欲害
続大如旦
大船
如摩中童

むかし呂不韋と云人呂氏春秋と云書を作りて千金をそなへて市に出て町中へ出て一字あらば千金を与へんと云

あらき車

あんぐ改て

たろれ

その作りかた

うん人うん山

金をよへんと

人は改めを清て

とをあくろう

是ろうして一字十金とも

なり一字一点にもなく習ば

我成ぐりの他生のたなくも

きまぶ老角師匠の恐と

なりなくみる也

親を悪友

離相伴

根生濁流

一日費一字

一字南文金

一日師の跡

悪敬中荊曲

習成定悪業

好月没学信

三百六十字

一点聊作生

次数年師子

師い三世の製と云師匠は三世とて過去未来現在なり

過は一世の眼と一世は現在なり

なり眼と云はまなこと

なり弟子七

尺ばかり

師の鼻を

踏べくと

三世の縁

なるゆえに師

牙

と

はる

ら

程の切なる師

匠なれば七尺ばかりも

鼻がうくしくも踏ぬやう

うやまひ法くとなり

師若し無変

弟子七人

教者一世眼

師教弟子

教者師者

宝冠載冠

物学者教者

孫文丹青

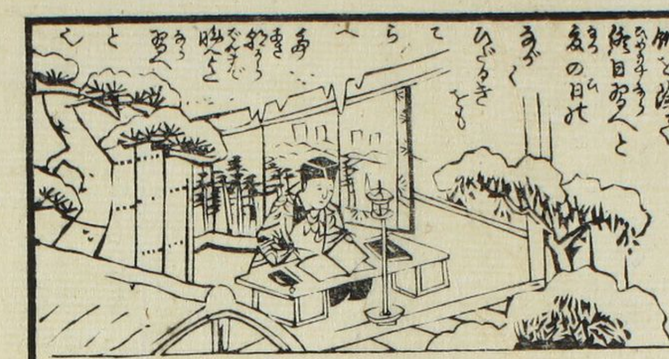
賓客酒肴

朝早起夕

横言酒肴

夕生寝酒

薄衣の冬の夜も寒を忍び
通夜涌せと云ふ表迄うしき
其物一まひのかぶなくて
くしも悲で歌も哀れ出わ
とあるを也又食を喜の
夏の日も
帆と除く
紙日の人と
炙の日は
うぐく
ひぐらき



匡衡ハ漢の代の人ぶつ
びんぞうして燈とともし油を
買ることあらぬ燈をあけく月の光りをうつして
も学文をつ
きと孫敬と
同じうする人ぶ
げふ
ちるか
して戸
を閉く
人と入ぞ
動し
ぞ

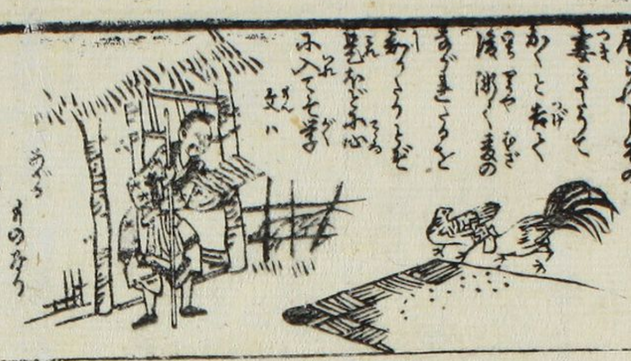
静坐業義を
水辛苦孫閑居
煎茶陳所
丹寒通秋涌
除帆涼月暗
多食倦学文

碧漢不ぞ入
讀千卷書
落衣々秋
多食こ炙日
辟濁心狂丸
涼帆悠眠

安身処
驚禍指光
閉戸不通人
惟利役眠
縄懸頭不眠
報堂の燈火

匡衡乃学
孫敬為学文
藤秦の壁文
傍の学文
東流好学
富士好学

高鳳と云人は百姓なれども学文を好こと人にすぐれたり
妻麦をかりに来る風ふき雨降て
千さう麦をうまさうに風
さまたげもなくして麦を見て
居られしその
妻きうとく
かくと云く
隣りの麦の
ずいぶんこうと
ふかどふか心
ふかくて学
文は



横雲高鳳
不知寝高
高鳳高
高鳳入意文
高鳳入意文
高鳳高
高鳳高
高鳳高

父の恩は山より高く須弥山も下し父の恩は須弥山も世界界一の高山なれども母の徳は海より深く海を渡し母の恩は海より深く海を渡し母の恩は海より深く海を渡し母の恩

孝子父母親育 貧苦居父勝
蒙摩涙母 夜苦卧母病
費乳味穀解 如亡山野
穀帰養子 貧困如泥海
漁蘇資父 高潔貧苦
日夜業 内唐朝夕味

魚知漁地獄 戴貝ふ和魚
水樹鳥枝 義渡宣渡
如野鹿捕 面夢手支
天雷裂其牙 猟帰焉其母
灵泥及其命 郭巨母親
塩売得金 養為自姑

汲水海産業　重宗学行中
涼雪中搜筍　王祥師伏
堅凍上漁魚　孝子郭巨又
浮泛用丹眼　刑孫養老母
巣食成鼠　董永賣身
伯夷養老　楊威孝獨母

虎前帝紀害　郭巨養貧士
烏鳥来運埋　許牧貞作墓
松柏植作墓　山号人古墓
父母没養養　仲尼落感
聖賢死孔子　生死命言
早下頭埋　煩悩何名滝

煩悩の風に不動なる速ふ若揺と求むべしと人と
しての煩悩
胸の内うい行く毒
ものうと
れもの
あるうい汗流
大小便というも不浄穢い
しきも成るとも後生い助
めるとと菩提心と起し霊
佛霊場へ参詣するして
後世と祈るべし

出不出菩提然の厳業
多生宝雖若
生者滅無寿不浮雖
期生死矣身体芭蕉
風前懐矣後羅浦満矣
金花冥途賜美人金殊和尚

黄金珠玉い唯一世の財宝
そは世ゆうの費うて後
世ういの成ふつぞ業花業
樹の
結縁
皮位羅漢
と位く
威勢のうち
うるもうの世
ぐうのるふ
して若根もな
さん後生のみと乳ぐして
命終ったらく山世の栄威い
くうも助けふるべし

唯一世財宝業花栄耀矣
更那佛道矣皮位羅漢矣
只現世而波飛鳥之契
為命寿清程雲雀参会
別離不懐間切利唐尼殿
欲要紀之者大樹之基間

布施とは人ゝにものをあたへ
たり施したる時のみにあらず
わがめが死後のちゝゝふなふ
ゝと若人貧窮にてなげき
さんとおもくど施わるれば他
人のわざゝとする時ゝ法
華の心にて千万ゝ
ようらぶかと出せば我い施
さぞともその施を人と同
功徳あり

悲大無量の者
須達長者
云間花毋者
門育七貧
世貴人命
月支夫人
後漢法度
龍華教力
新獄牢杖
人命不殺
布施義
人命不惜財

心ゝ悲んで一人ゝ施せば功徳
大海のごとく拾貧雖
波の者とる

ゝも家の
寿なる
と云ふ
心ゝ其
人のつ
ゝと云ふて
施をする
ものは些のお
と施ても
功徳い大
海のごと
又施をし
ても我分のくもふるゝ人こ
そゝ財い大勢の人ゝ多くの
施をしても功徳い数子程なし

財寶義
丁布施戒
可生涅槃
切法如大海
浮報如蘇子
子所貴金銀
貧窮者捉漢
男女貧窮時
悲心施一人
為人施法人
罪如須人
折貴仏像

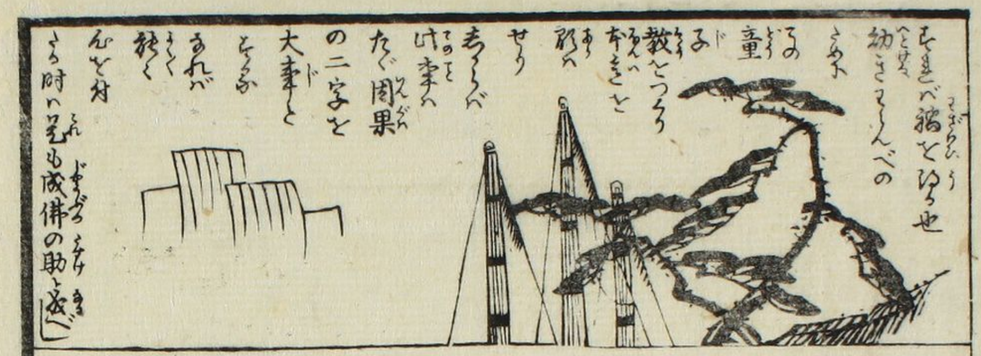
砂と聚めて塔とする人い早
黄金の書を研どうぢうま供
の数ぶるよ小石を塔ふつろ
功徳とありてこぐく美金
のそぐ人と研とそ佛成とな
又華を折て
佛ふ供する
輩い速ふ
蓮臺ふ
趺を
結ぶ
と
花と
仏ふくけさむけ向る功徳い
佛果とゆく蓮
座ふ結跏趺座を
しくそちまのうそるの上ろ
あ足を組合せ安座するく
又絶交を半偈でも聴で
三千界の宝もまるとそ

速疾菩提一句伝受力
紀特猶是
勝二子書宝
上頂求仏道
中可発意
下偏及三乗
共可成佛
為誘引幼童
但因果之理
出門典外典

幼童を誘引せんが為り
因果の
道理
と

見者勿謗法 聞者不生笑
童子教終

青蓮宮府入本門直門
小三摩訶止観書



元禄二年 三月新刻

安政五戊午孟夏再板

浪華書舗 河内屋太助梓

唐物町心齋橋通

和漢御書物古本賣買所

唐本和本石刻法帖神儒佛書天文地理暦史暦算歌書記録繪入讀本貸本寫本軍談雑書類百人一首御經品々

右之外何ニ不限澤山仕入致候間多御ふ限御用向ゝ仕有之候ハヽ何なりとも御用ふ弁ふ用ふ仕候ハヽ何なりとも御用ふ弁ふ用ふ仕候ハヽ何なりとも御用ふ弁ふ用ふ仕